

## 広く深い教養の習得を

経済学部長 小村 衆 統



経済学部新入生の皆さん、入学おめでとう。近年、日本および世界の経済社会は、情報化、グローバル化、ソフト化等の急進展により、複雑で多様な様相を示しており、経済社会の分析には多角的なアプローチの必要性が一層高まっている。ことに旧社会主義諸国の市場経済化への動態および発展途上国経済の急発展とその行方との関連もあって、今日、資本

主義諸国間の経済システムの違いが関心をよんでいる。資本主義システムの類型として、米国型、欧州型および日本型に分類されることが多いが、これらの違いはそれぞれの地域の歴史的・文化的伝統等と深く関わっている。経済システムに関連しているから、その考察には歴史や文化の知識も重要なのである。また今日、地球環境問題、自然環境保護への関心が急速に高まっている。これからの経済発展は環境との調和が不可避である。いま経済学はこれらの問題について分析可能性が問われつつある。

以上は重要な問題の一端にすぎないが、これらからわかるように、現代の経済問題を有効に分析するためには、経済および経済学の知識だけでなく、広範で深い教養的知識が不可欠である。大学での教養的科目で学ぶと共に、自ら長編の歴史書や文学書などをじっくり読むことである。またグローバル化の時代にあつて、時事英語の能力を鍛えておくことも大切である。君たちの実り多い成果を祈る。

## 全ては自分次第

経済学部学生 紙 田 光 豊

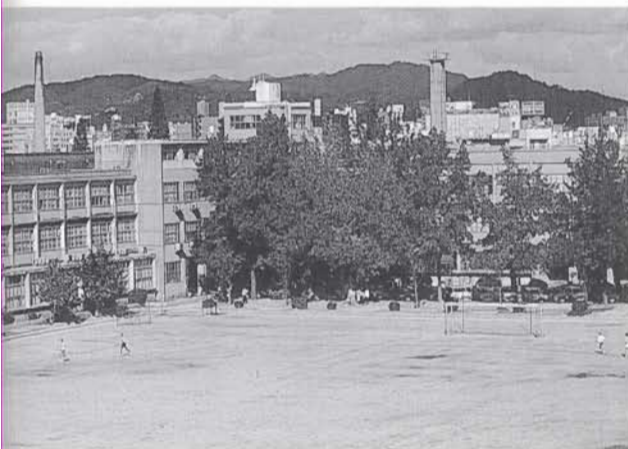


入学おめでとう。そして受験戦争お疲れさま。戦争によって君達は何を得たのであろうか。何を失ったのであろうか。大学へのパスポート

を得た代わりに、大事なものを失っていないであろうか。例えば友人、恋人。打ち込んでいたクラブを途中でやめた人もいるであろう。そう、いろんなもの、一言でいうと自由を犠牲にしてきたに違いない。

そうまでして入った大学は、自分次第で何とでもなる所である。バイトも好きだけできる。クラブ・サークルにも燃える事ができる。自分を磨きに、英会話やパソコンの学校に通う事もできる。要は君たち次第で何でもできるのである。

大学四年間、何でもできるし、何もしないでもすむわけだが、せっかく取り戻した自由なのであるから、何か自分のために、自分のしたい事を、自分で見つけて、打ち込んでみる事である。四年後、胸を張れるように。



経済学部玄関